

「知っているようで知らない認知症 — 認知症の人に寄り添うには —」

演者：須磨区医師会会長 松井誠一郎

要約：

ひと昔前は、「認知症＝物忘れ」という考えが一般的でした。しかし、脳のどの部分に支障をきたすかにより、物忘れ以外にも様々な症状が起こります。そのため、最近では認知症の診断基準が変わってきています。まずこれを知ること、そして認知症をできるだけ早期の段階で見つけることが大切です。認知症を早く見つければ治るのか？そうではありません。認知症を早く見つけて、早い段階からその人をみんなでサポートすることで、たとえ病気としての認知症が進んでも、その人らしく過ごすことができ、認知症に伴う困った症状が出にくくなります。それは、本人だけでなく介護する側にとってもハッピーなことです。では、いったい誰がサポートするのか？それは、家族であり、医師であり、介護関係者、そして今や認知症サポーターなど町の人々が加わっています。本人や家族だけで悩む時代ではありません。本日の講演では、前半は認知症の病気の話、残り半分は認知症の人に寄り添うにはどうしたらよいかというお話しをします。そして、この講演会の最後には、神戸市での取り組みについて行政からお話して頂けると思います。